

令和7年度 学校評価報告

草加市立小山小学校

(令和8年2月4日作成)

1 学校教育目標	
<p>○進んで学ぶ子 : 草加っ子の基礎基本の定着、草加っ子の学びを支え授業の五か条の定着、聴く力・対話する力の育成、特別支援教育の視点を生かした教育の充実</p> <p>○思いやりのある子 : 学年・学級経営の充実、互いの良さを認め合う態度の育成、人の気持ちを理解する力の育成</p> <p>○体をきたえる子 : 運動の習慣化(なわとび中心)、基本的生活習慣の確立、保健安全教育の充実、腰立てタイムによる集中力の育成、外遊びの奨励(ロング昼休みの活用)</p> <p>○ねばり強い子 : 課題に対してあきらめない心の育成、継続する力の育成、他者と協働し、達成感を味わう心の育成</p>	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<p>◇不登校・いじめの未然防止に向けた学年・学級経営の充実</p> <p>◇開かれた学校づくりの推進(地域との協働)</p> <p>◇互いの良さを認め合う児童の育成(学級活動)</p> <p>◇学級経営力・授業力(わかった・できた)の向上(保護者・地域への誠意ある対応)</p> <p>◇全教職員が、愛情と情熱を持ち学校運営の推進者である意識の確立</p>	<p>成果</p> <p>○令和5年度の草加市委嘱研究発表の内容を継続的に取り組み基礎的・基本的な知識技能の習得が見られた。</p> <p>○家庭と連携を密にし、保護者が安心して学校に相談できる体制の充実が図られた。</p> <p>課題</p> <p>●標準カリキュラム等の資料を活用し、幼保小中を一貫した視点を踏まえた年間指導計画の一層の充実を図る。</p> <p>●不登校や集団不適応児童に対する支援の充実を図る。</p>

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○教育活動に関する保護者アンケートでは、組織運営に関する設問において肯定的な評価が6項目中全てにおいて95%を超えた。</p> <p>●働き方改革を一層推進し、時間外勤務4.5時間越えの教職員ゼロを目指す。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	<p>○学校課題研修「自ら学びに向かう子どもの育成」において「算数科」及び「特別の教科 道徳」を中心に校内授業研究会を年間3回実施できた。</p> <p>●各種学力調査結果を分析し、学力向上に向けた取組を全校で推進を図る必要がある。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○危機管理マニュアルを見直し、教職員に周知し共通理解を図った。保護者アンケートの健康・安全に関する項目で肯定的評価が98%であった。</p> <p>●必要に応じてマニュアルの見直しを継続する。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	B	<p>○個人情報管理規定に基づき、個人情報の適正な管理ができた。日常・定期の安全点検を実践し、課題箇所に対する迅速な修繕が図られた。</p> <p>●デジタル校務PC等の持ち帰りについての規定を更に詳細に定め、個人情報の管理の徹底に努める必要がある。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	<p>○学校運営協議会やPTA本部との連携に努め、その成果を適宜学校運営にいかした。</p> <p>●教職員の働き方改革の推進につなげるため、学校応援コーディネーターと連携しながら、学校応援団による活動の充実を図る必要がある。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	A	<p>○花栗中学校区合同研修会の中で、幼保小中を一貫した教育の推進について教頭が講義を行い、各校における学びのつながりを意識した年間計画の作成や日々の授業改善を図ることができた。</p> <p>●本年度の成果を引き続き次年度へも生かしていく。幼保との連携を一層推進していく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の進捗状況を定期的に確認し、教職員の働き方改革も踏まえて最適な授業時数を設定できた。 ●授業時数、学習内容ともに適切な教育課程の実施を継続する。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートでは、「授業は分かりやすい」の項目で肯定的な回答が95%であった。 ●今後も授業改善に向けた継続的な取組が必要である。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校課題研修の重点教科として道徳教育推進教師を中心に、研究を深めることができた。 ●今後も、「考え、議論する道徳」の一層の充実に努める必要がある。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTとも連携しながら実施することができた。高学年では教科担任制を取り入れ、実施した。 ●今後も、「外国語科外国語活動」の一層の充実に努める必要がある。中学校との連携も深めたい。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動主任が中心となり、「あいさつ運動」等の児童会活動の改善を図ることができた。 ●各学級の学級会の取組状況を改めて把握し、推進を図る必要がある。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年に応じた教科横断的な学習、創意ある授業実践を推進した。プログラミング教育の充実も進んだ。 ●ふるさと草加学習を土台とした探究的な学習となるよう年間計画等を見なおす必要がある。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導委員会・教育相談・いじめ対策委員会を定期的に開催し、情報共有及び指導内容の共通理解を図った。 ●大きな案件が発生した際の組織的な指導体制の改編も含め、改善充実を図る必要がある。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の視点を明確にし、身の回りの仕事や環境への関心の高揚を図った。キャリアパスポートを活用し、家庭との連携を図った。 ●中学校とも連携しながら、将来への夢や希望の獲得に向けた教育を一層推進する必要がある。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童理解研修会や巡回相談を活用し、配慮が必要な児童への指導の共通理解を図った。個別指導が必要な児童への校内通級体制を構築した。 ●課題への早期対応や教育的ニーズに応じた支援体制を構築していく。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館の環境整備、図書委員によるおみくじやビンゴ等の読書推進活動などの取組により、多くの児童が本に親しんだ。 ●児童・保護者アンケート共に家庭での読書の習慣がある児童が5割程度である。今後も、家庭での読書習慣の支援と学校における読書活動の推進が必要である。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学習者用PC端末を活用した研修を実施し、情報教育の授業改善を図った。また、AIドリルの活用を進めた。 ●SNSの利用など、児童の情報モラルに関する理解と意識の向上を図る必要がある。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全体計画及び年間指導計画を策定し、組織的・計画的に人権教育に取り組んだ。 ●「人権感覚育成プログラム第2集」を用いた参加体験型学習の充実を図る必要がある。

草加市立小山小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・わかった・できたが実感できる授業実践 ・家庭との連携 ・各種学力学習状況調査結果の向上 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校課題研修「自ら学びに向かう子どもの育成～学力の向上～」を実践し、自己肯定感・自己有用感・他者理解の育成につなげた。 ○スクラム事業の取組で4・5年生の算数国語を中心とした学力向上につなげた。 ●スクラム事業の取組を学校全体の取組とし、指導力の改善や個に応じた指導の充実を図る。
	②規律ある態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、返事、廊下歩行、チャイム着席、黙働清掃、正しい姿勢の徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の生徒指導部会において各学年の状況について確認し、全職員が同じ認識のもと児童の指導にあたることができた。毎週の職員打合せでは、各学年の学級経営の好取組を発表する場面を設け、全校で共有した。 ●あいさつについてのアンケートで、保護者・児童共に2割の児童が「あまりできていない・できていない」と回答している。今後も、地域・保護者とも連携しながら、あいさつ運動の取組の強化が必要である。
	③体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に運動する授業の実践 ・体育的活動の充実 ・体育に関する研修の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、体育授業や体育朝会で本校の課題である走力を高める様々な運動に取り組んだ。特に、新たに持久走記録会を開催し、体力の向上につながった。保護者からも好評を得た。 ●新体力テストの結果から、本校の課題である走力を改善するため、学校全体での補強運動を実施する必要がある。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

学校教育目標の具現化を目指し、基本方針に沿って学校経営を図った。また、子ども達にとって安心安全な学校を心がけ、全教職員による協働意識のもと教育活動を展開した。

成果として、保護者アンケートの学校運営に係る部分では、6項目全てにおいて肯定的な回答が95%を超えた。特に「健康や安全を配慮している」98%、「電話や接客などの対応が適切で丁寧に行われている」99%、「学校は悩みを相談できるようにしている」95%、と高い結果であった。また、安心安全な学校生活に関する項目「笑顔で学校生活を送っている」96%、困ったときに相談できる先生や友達がいる」96%と高い割合で肯定的な回答を得た。

また、授業時数や日課の見直し等に取り組み、時間外45時間越えの教職員が0人の月も生まれる等、働き方改革が進んだ。

今後も、安心安全な学校を土台に学校経営方針である「笑顔いっぱい、の夢ふくらむ学校」の実現に向けて、指導方法や指導体制、評価の工夫改善に努めていく。

6 次年度の改善策

○学力の一層の向上

- ・本年度の校内授業研究の成果を引き続き継続し、自己肯定感・自己有用感・他者理解の向上を図る。
- ・学習者用PC端末を活用した一層の授業改善を図る。(AIドリルの活用も含む)
- ・「草加の学びを支える5か条」の徹底と定着を達成するため、チェックリストの活用や標準カリキュラムによる学びのつながりを意識した授業改善を図る。
- ・スクラム事業も活用しながら、各種学力調査の分析を行い、児童個々の課題を明確にし、特に学力低位の児童に対して個別最適な学びができるよう手立てを講じていく。

○生徒指導・教育相談の充実

- ・欠席30日を超える児童が増加している。また、登校しても教室に入れず「ひだまりで過ごす児童も複数いる。外部機関との連携、家庭との共通理解を深めるとともに、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等との連携を図り、早期対応と解決に努めるとともに、校内通級や学習補助員学級支援員の効果的な活用により個別の児童のニーズに対応した児童支援体制の充実を図る。
- ・生徒指導委員会や教育相談委員会等を積極的に活用し、全教職員で学校のきまり等について共通理解を深めし、徹底してぶれない指導を学校全体で取り組む体制の構築を図る。

